

審査結果**各賞氏名（50音順）****大賞（賞金100万円）1作品**

- ◎「テレワークによる活力ある地域づくりの構想」
豊川 正人さん（早稲田大学大学院 国際情報通信研究科）

優秀賞（賞金20万円）2作品

- ◎「地域ブランド構築のマネジメント ～日本の「食」産業活性化の処方箋～」
池澤 威郎さん（名古屋市立大学大学院 経済学研究科）
- ◎「『限界集落』化の歴史的プロセスに見る山村の未来 ～高知県旧物部村の事例から～」
楠瀬 慶太さん（九州大学大学院 比較社会文化学府）

佳作（賞金10万円）5作品

- ◎「自転車でも楽しい街、京都の交通政策において民間レンタサイクル事業者が果たす役割 ～出町柳駅前での民間サイクルシェア事業の分析を通じて～」
尾形 浩一朗さん（京都大学大学院 地球環境学舎）
- ◎「公的 direct 支払いに頼らない、消費行動による direct 支払い獲得へ ～原風景を守るための付加価値商品～」
菊池 真純さん（早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科）
- ◎「地域ルールの可能性 ～地域特性・価値の創出及び向上を目指して～」
高橋 香菜さん（早稲田大学 社会科学部社会科学科）
- ◎「地域空間構造の把握から見る地域内循環システムの再生 ～福島県田村市船引町を事例として～」
松尾 真子さん（東京大学大学院 新領域創成科学研究科）
- ◎「団塊の世代の文化活動による地域の活性化の可能性 ～埼玉県における団塊の世代の文化活動のあり方を事例に～」
渡邊 享子さん（お茶の水女子大学 文教育学部人文科学科）

懸賞論文審査委員

- 大西 隆 東京大学大学院工学系研究科 教授
- 奥野 信宏 中京大学総合政策学部 学部長
- 嘉名 光市 大阪市立大学大学院工学研究科 准教授
- 原田 昌彦 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 公共経営・地域政策部 主任研究員
- 中谷 巖 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 理事長

講 評

三菱UFJリサーチ&コンサルティング理事長 中谷 巖

今回で2回目となる当社懸賞論文に対し、77点のご応募をいただいた。まずは、ご応募いただいた皆さんに敬意を表するとともに感謝申し上げたい。本懸賞論文のテーマである「地域活性化」という難問に立ち向かい、貴重な夏休みを論文執筆に充てられた学生の方々が少ないからずおられることを大変心強く感じた次第である。

今回の懸賞論文の審査は、前回同様、まず当社研究員による1次審査で絞りこみをし、その後、外部審査員の先生方を交えた最終選考で各賞を決定するという二段構えの体制でおこなった。1次審査は、当社で実際に地域活性化に向けた受託研究に従事している公共経営・地域政策部のメンバーが担当した。2次審査（最終選考）では、都市工学がご専攻の大西隆先生（東京大学）、嘉名光市先生（大阪市立大学）、経済学がご専攻の奥野信宏先生（中京大学）に審査に加わってもらい貴重なご意見をいただいた。当社からは、1次審査のメンバーでもある原田昌彦主任研究員（公共経営・地域政策部）と中谷が参加した。

上記メンバーによる厳正な審査の結果、大賞1作品、優秀賞2作品、佳作5作品が選出された。以下、各受賞作品について簡単なコメントを付しておく。

大賞を受賞した豊川正人さん「テレワークによる活力ある地域づくりの構想」は、テレワークによる地域活性化の効用について事例を交えて考察し、国内の他地域でも活用できる土台を提案した作品であり、アンケート、インタビューに基づいた実証的な論文であること、筋立てがしっかりしており主張が明確であることなどが評価された。

優秀賞の池澤威郎さん「地域ブランド構築のマネジメント～日本の「食」産業活性化の処方箋～」は、地域ブランドに関する実践的整理学といった内容の論文であり、ブランドのマネジメントを「開発」、「維持・管理」の二つのフェーズに分けて解説している。プラグマティックに上手くまとめており、他への応用も可能であることが評価された。

同じく優秀賞の楠瀬慶太さん「『限界集落』化の歴史的プロセスに見る山村の未来～高知県旧物部村の事例から～」は、丁寧なフィールドワークに基づく論文であり地域の歴史分析として面白い読み物になっているところが評価された。

佳作は以下の5点が選出された。

尾形浩一朗さん「自転車でも楽しい街、京都の交通政策において民間レンタサイクル事業者が果たす役割～出町柳駅前での民間サイクルシェア事業の分析を通じて～」は、題材のユニークさと、フィールドワークをともなってよく調査されていることが評価された。

菊池真純さん「公的 direct 支払いに頼らない、消費行動による direct 支払い獲得へ～原風景を守るための付加価値商品～」は、direct 支払制度の問題点を指摘している点や農村というものをトータルでみてブランド化しようとする視点のユニークさが評価された。

高橋香菜さん「地域ルールの可能性～地域特性・価値の創出および向上を目指して～」は、「地域らしさ」を体現するような景観まちづくりの話を、地域ルールの制定という観点から考察し、そつなくまとめている点が評価された。

松尾真子さん「地域空間構造の把握から見る地域内循環システムの再生～福島県田村市船引町を事例として～」は、地域空間構造の変容のプロセスを時間軸をもって分析した論文であり、論文としての体裁もしっかりしているところが評価された。

渡邊享子さん「団塊の世代の文化活動による地域の活性化の可能性～埼玉県における団塊の世代の文化活動のあり方を事例に～」は、紹介事例がユニークで面白いルポルタージュに仕上がっている点が評価された。地域らしさにこだわるのではなく、人が楽しいと思う取り組みを生かすことによる活性化は、地域ルネッサンスというテーマに上手くあっているとの声もあった。

以上が今回の懸賞論文受賞作の簡単な紹介であるが、いずれも短い募集期間の中でよくまとめあげられた力作揃いである。大賞、優秀賞の作品は、本誌に論文が掲載されているが、佳作受賞作についても、当社ホームページ (<http://www.murc.jp/>) にて閲覧可能である。多くの方々がこれらの論文に目を通され、地域活性化の処方箋についての考えを深めていただければ、この懸賞論文にたずさわったものとして望外の喜びである。